# 地域防災地図作成の手引き

（枕崎市宇都集落における地域防災地図作成風景）

鹿 児 島 県

# は　じ　め　に

鹿児島県は，その地理的特性から集中豪雨や台風による甚大な被害を受けてきた歴史があります。災害による被害を最小限にとどめるためには，県民自らが防災対策の主体であることを認識し，日頃から災害に備えることが極めて重要なことから，県では，「自助」，「共助」，「公助」を基本理念とする「鹿児島県防災対策基本条例」を平成20年4月から施行しました。

大規模な災害が発生した場合の「公助」には限界があります。普段から「自助」「共助」の充実を図っておくことが必要となりますが，特に，「自助」だけでは解決が困難なことに対して，住民や自主防災組織など，地域で協力して助け合う「共助」の充実を図ることが重要となっております。

このような中，自主防災組織など地域住民が効果的な防災対策を実施するためには，地域住民の方々が意見を出し合って「地域防災地図」を作成し，地域ぐるみの早めの避難体制や災害時要援護者対策などを検討することが最も有効な手段の一つであります。

このため，県においては，平成20年度の事業として，風水害，地震，津波などを想定して県内4箇所をモデル地区に選定し，これらの地区における作成過程を参考に，この「地域防災地図作成の手引き」を作成しました。

今後，自治会長や県地域防災推進員，各市町村防災担当者などの皆様が，この手引きを参考に地域防災地図を作成され，その取組により，地域住民の情報の共有化，防災意識の醸成が図られ，県民の皆様が安心して生活できる地域社会の実現の一助になることを期待します。

# 目　次

Ⅰ　準備
1　準備 …… 1

Ⅱ　事前説明
1　概要説明 …… 4

2　実施上の注意 …… 4

Ⅲ　ＤＩＧの実施
1　地図作成 …… 5
1－1　風水害 …… 6
1－2　地震 …… 7
1－3　津波 …… 8

2　防災対策の検討 …… 9
2－1　風水害 …… 10
2－2　地震 …… 11
2－3　津波 …… 11

3　フィールドワーク（まち歩き） …… 12

4　地図の修正，参加者全員での防災対策のまとめ …… 13

Ⅳ　地域住民への周知
1　地域住民への周知 …… 14

（参考資料）
□　鹿児島県防災対策基本条例の概要 …… 17
□　大地震・津波に対する心得 …… 22
□　大雨災害に備えて …… 23
□　鹿児島県防災研修センター …… 24
□　災害に関するホームページ …… 25

（大崎町中村一区における地域防災地図作成風景）

# Ⅰ　準備

## 1　準備

### (1) 事前準備

災害の種別や対象地域などを決定して，訓練の目的を明確にします。

①訓練テーマの決定

例）災害種別：地震　対象地域：○○小学校校区

②参加人数の見積り

１グループ６～１０名程度を目安に，グループ数に応じて参加人数を見積ります。

例）１グループ１０名×４グループ＝４０名

③会場の手配，参加の呼びかけ

会場には，グループ数の地図を広げられるだけのテーブルが必要になります。

④役割分担の決定

例）講師役の人…地域防災地図の作成を総括して進める責任者で，地図作成の基礎知識がある人が望ましいでしょう。

アドバイザー…防災の専門家で，可能ならば，テーブルごとにいることが望ましいでしょう。

⑤地図，消耗品の手配

ア　地図（著作権の条件をクリアする必要あり）

・対象地域の現在の地図（住宅地図や都市計画図など；避難所が隣町にある場合は，隣町の地図も準備）
・大きさはグループの人数に応じて作成しましょう。（必要に応じて拡大コピーして地図どうしをつなげるなど）
・１グループ６～１０名程度とし，グループ数だけ地図を用意します。
・対象地域の昔の地形図（必要な場合は国土地理院から入手；有償）

イ　備品

ａホワイトボード，黒板など

グループごとの発表に使用します。議論の結果を模造紙に箇条書きにして，それをホワイトボードに貼って発表します。

ｂ液晶プロジェクタ，スクリーン，パソコン，デッキ

地図作成開始前に，参加者により明確に課題や災害についてイメージを持たせるために，パソコン等を活用して，地図作成の概要等について説明します。

ウ　消耗品類

ａ透明シート

地図の上から覆って，ペンで書き込んだり，ふせん紙を貼ったりします。

ｂ油性ペン

透明シートに書き込むためのペンです。太字・細字両用で６～１２色セットが良いでしょう。

ｃマーカー消し（ベンジン，ティッシュ）

書き込みを修正する際に使用します。

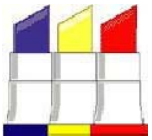

写真１　準備する消耗品

### ｄセロハンテープ

地図どうしの貼り合わせや地図と透明シートの固定に使用します。また，発表用の模造紙をボードに貼る場合にも使用します。

### ｅふせん紙

地図上での表示，意見の書き出しに使用します。小（細長），大（長方形）など大きさの違うものをいくつか使用するとよいでしょう。

### ｆ●ドットシール（カラーラベル）

透明シート上に貼り，様々な情報を表示します。赤丸，黄丸，緑丸，青丸を用意すると良いでしょう。

### ｇ模造紙

検討した結果を記録したり，発表内容を記入するために使います。

### ｈ過去の災害の資料等

・過去の災害の写真，危険箇所の写真等（市町村土木担当部局や県地域振興局・支庁の建設部で入手出来る場合があります）
・土砂災害ハザードマップ・土砂災害警戒区域図（市町村土木担当部局や県地域振興局・支庁の建設部で入手出来ます）
・洪水ハザードマップ・浸水想定区域図（市町村土木担当部局や県地域振興局・支庁の建設部で入手出来ます）
・市町村作成の防災マップ（市町村の防災担当課（総務課等）で入手できます）

### ⑵ 当日の準備（会場設営）

・地図作成は，多くの住民が参加し様々な意見を出しあうことで，参加者にとっての新たな発見や防災意識の高揚につながります。
・地図を囲むのに適正な規模の人数にグループ分け（６～１０名程度）を行います。１グループが１０名以上だと地図が見づらくなり，他の人に任せきりの人が出てくるなど，一人一人の地図作成作業への参加意識が薄れる可能性があります。
・グループ数に応じ，テーブルを並べ，各テーブルごとに，地図や消耗品等を配置します。
・最初に地図をテーブルにテープで固定して，その上から透明シートをかけ，透明シートも同様にテープで固定します。

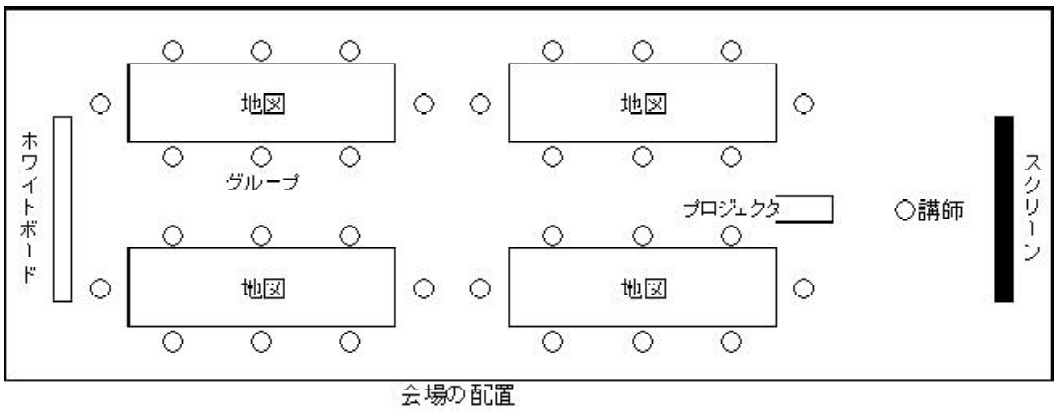


図１　会場の配置図例

写真２　会場風景

※講師役の人は，可能であれば，事前に危険箇所等の現場の下見をしておきましょう。

☆ワンポイントアドバイス☆

参加者に災害のイメージを持ってもうため，ビデオや写真などを見てもらうことも効果的です。県防災研修センターで防災ビデオの貸し出しを行っているので，詳しくはセンターまでお問い合わせください。

（TEL　０９９５－６４－５２５１）

# Ⅱ　事前説明

## 1　概要説明

講師役の方は，訓練の目的や訓練のやり方などを，地域住民の方々に説明した上で，訓練に取り組むようにしましょう。なお，この手引きでは，以後，地域防災地図作成の訓練のことを「ＤＩＧ」と表すこととします。「ＤＩＧ」の意味は次のとおりです。

### (1) ＤＩＧとは

ＤＩＧ（Disaster Imagination Gameの略:「ディグ」と呼びます）とは，地震や風水害などの災害が起きたときにどのような災害が発生するかを地図上で想定し，参加者自身が地域の特徴や課題を地図から読み取り，必要な対応を具体的に考える訓練です。

### (2) 目　的

地図上に危険箇所等を落とし込むことで，災害危険箇所等の情報共有が図られ，参加者の防災意識の高揚につながります。
また，ＤＩＧの実施を通じて，地域ぐるみの早めの避難体制や災害時要援護者対策等の検討を行うことにより，地域防災力の強化が図られます。

写真３　ＤＩＧで作成した地図

## 2　実施上の注意

・自由に発言，意見交換ができる雰囲気をつくりましょう。
・人の意見をよく聞き，異論がある場合には，代案を示しましょう。
・ＤＩＧに正解はありません。参加者の優劣を決めるものでもありません。
・ＤＩＧの中で出た個人情報などは，参加者以外への第３者へ他言しないでください。
・自己紹介は，顔見知りなら省いてもかまいません。
・各グループで話し合って，グループリーダーを選出してもらいます。リーダーは記録者と協力してグループ内の意見をまとめたり，グループ発表をする役となります。

**☆ＤＩＧのポイント☆**

・ＤＩＧは，参加者が地図を囲み，書き込みを行いながら，楽しく議論することで，自分達の地域に起こりうる災害像をより具体的にイメージすることが出来る災害図上訓練です。
・災害情報の情報共有により，参加者の防災意識の高揚につながります。
・市町村・消防職員の参加・助言を得ることで，地図作成，防災対策の検討，フィールドワーク（まち歩き）での新たな発見が期待できます。

# Ⅲ　ＤＩＧの実施

## 1　地図作成

地図に様々な災害情報を書き込むことで，参加者が地域に潜む問題について「発見する」ことが出来ます。なお，以下の色の使い分けは，地域防災地図作成研修会基礎研修の講師（山口大学　瀧本浩一准教授）の講義資料によります。

写真４　ＤＩＧ作業風景（地図上の透明シートにマーカーで塗る）

### (1)　「まちの構造，つくり」の確認及び色塗り

①道路

・主要道路，幹線道路を「茶色」でなぞりましょう。
　⇒街区を把握します。

・狭い道路（幅２ｍ以下），路地を「ピンク色」でなぞりましょう。
　⇒家屋密集度，避難の困難度，救助・救援の困難度等を把握します。

②鉄道

・ＪＲの鉄道を「黒色」でなぞりましょう。

③オープンスペース

・広場，公園，オープンスペース（学校，神社，空き地等）の輪郭線を「黄緑色」でなぞりましょう。
　⇒一時避難，応急教護，情報提供など多目的スペースになります。

④水路，用水，河川等

・水路，用水，河川などの自然水利や海岸線を「青色」でなぞりましょう。
　⇒（地震がテーマの場合）消火用水，生活用水の入手場所の把握をします。
　⇒（風水害がテーマの場合）浸水開始場所の把握をします。

⑤鉄筋コンクリート造建物

・ビル，マンションなど（鉄筋コンクリート造建物）の浸水時に駆け込みできる建物（地震に伴う火災発生時に延焼防止になりそうな建物）の輪郭線を「紫色」でなぞりましょう。

⑥Ｓ５６以前の木造住宅（地震のみ）

・大規模な地震による被害が想定されるＳ５６以前の木造住宅を「黄色」でなぞりましょう。

※ここから先は，テーマ別に「１－１風水害」，「１－２地震」，「１－３津波」に分かれます。